

新規手法開発検討結果

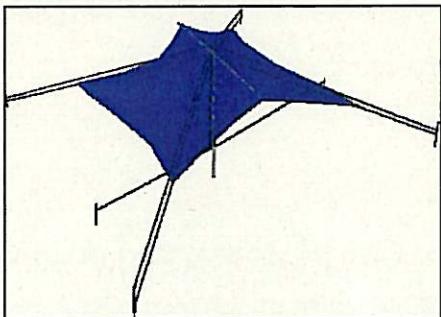
(ドロップネット)

生け捕り用ワナの開発として、ドロップネットの試作を行った。稼働テストを行った後、第3回捕獲時期(2007年9月28日～2007年10月4日まで)に、ビジターセンター裏で実際に捕獲実験を行った。使用した誘因用餌は、アルパインキャップチャーで用いているヘイキューブであった。捕獲実験期間中、4回の稼働が確認されたが、個体の捕獲には至らなかった。

捕獲に至らなかった理由として、以下の事が考えられた。

- ① 用いたネットの目合が小さかった。(今回用いた目合いは1辺 15cm)
- ② 用いたネットの柔軟性が低かった。(今回用いたネットはワイヤーなし防鹿用ネット)
- ③ 用いたネットの大きさが小さすぎた。(今回用いたネットの大きさは1辺 6m)

ドロップネットでの捕獲を成功させるためには、上記の点についての改良が必要であるが、③の点については、大台ヶ原の立木密度に対するネットの大きさは1辺 6m程度が限界であると考えられる。①、②の改良によって捕獲が成功しない場合にはこの方法は断念するのが妥当と考えられた。



ドロップネット模式図



試作したドロップネットわな